

小規模多機能型居宅介護 サービス評価

ひとい木

- ◆自己評価 事業所自己評価・・・・・・・・・・・・・・・・（事-①～⑨）
- ◆小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和 8 年 5 月 28 日 (木)
1. 初期支援（はじめのかかわり）	メンバー	12 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	人	11 人	1 人	人	12 人

前回の改善計画	・初回利用者を分かりやすく訪問表に標記し、職員が積極的に関わられるようにする。 ・初回利用者の訪問サービス対応時は、必要に応じて複数回同行訪問をする。
前回の改善計画に対する取組み結果	全員に行くことは難しかったが、初回の同行訪問は出来得る限り行った。ただ、複数回行うことは難しく、1 回同行したらその後は一人で対応してもらうことが多かった。合わせて必要な部分については、写真などを用いて申し送りを行ってきたため、情報の共有はできた。初回の利用者を訪問表に標記することは、漏れてしまうことが多かった。口頭で共有することで、意識的に関わりを持つことはあった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか？	3	7	2		12
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか？	2	10			12
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか？	4	8			12
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか？	1	8	2	1	12

できている点	サービス開始前までにケア会議やビジネスチャットを活用し、情報共有ができている。初回訪問するスタッフには、必ず訪問したことがあるスタッフが同行訪問することができ、統一したケアに繋がっている。慣れてもらえるまでは、席の配慮・交流機会の提供などを意識的に言い、訴えや要望を聞く努力ができた。
--------	---

できていない点	利用開始前に情報が共有されているが、全ての把握は難しく、どうしても口頭・口伝えの共有になってしまっていた。訪問や送迎の対応が少ないと、コミュニケーションをとる機会が少なくなってしまう、自宅での様子を聞き取ることが難しかった。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	・何気ない会話も、新規の利用者さんは1週間程度、積極的に記録に残して共有する。 ・初回の様子は特に、家族にも状況を丁寧に伝える。
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和 8 年 5 月 28 日 (木)
2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)	メンバー	12 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	6 人	6 人	人	12 人

前回の改善計画	・「～したい」を聞き出せるよう、普段からコミュニケーションを積極的にとっていく。 ・担当スタッフが「～したい」を聞き取り、個別会議で目標を計画する時に盛り込む。
前回の改善計画に対する取組み結果	前半は「～したい」を普段の会話から聞き取る機会を持ち、個別会議で目標に落とし込むことはできた。後半は、人員の問題もあり、個別会議の開催機会を作ることが難しくなってしまった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?		7	5		12
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?		7	5		12
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?		7	5		12
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	1	5	6		12

できている点	何気ない会話の中でそれぞれの話を聞くことができ、個別会議の予定がある時は特にコミュニケーションをとるよう心掛けていた。また、個別会議をすることで色々な視点の「～したい」が見えたり、記録が共有されることで、関わりの少ない利用者さんの目標を知ることができた。更に毎日ケアプランの内容を記録することで、目標を意識できるようになった。
--------	--

できていない点	担当以外の方の「～したい」を聞き出せなかったり、同じ人ばかりとコミュニケーションをとってしまうことがあった。時間の都合で個別会議が出来なくなると、積極的に「～したい」を聞くことが少なくなってしまうたり、更新ができなくなってしまう。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	・作業とかではなく、積極的にコミュニケーションをとる日を作る。 ・コミュニケーションの内容も、ケース記録に残していく。 ・変則勤務で会えない職員には、申し送りやケア会議を活用することで、相談・確認を行う。
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和 8 年 5 月 28 日 (木)
3. 日常生活の支援	メンバー	12 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？	人	12 人	人	人	12 人

前回の改善計画	・利用者さん・家族・スタッフ同士 もっとコミュニケーションの機会を作っていく ・定期的に個別会議を行い、目標・ケアの統一を話し合い共有する
前回の改善計画に対する取組み結果	前半は個別会議を行えたが、後半は人員の問題で開催できないことが多かった。月 1 回の職員会議内で個別の支援について話し合う場は継続して設けられていた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が 10 個以上把握できていますか？		4	4	4	12
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか？	1	11			12
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか？		6	6		12
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか？	3	9			12
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか？	1	10	1		12

できている点	利用者さんの ADL・体調・気持ち「いつもと違う」などを共有し、専門職と連携し臨機応変に細やかな対応ができた。入浴時など 1 対 1 で関われるタイミングで、利用者さんの声を聞き、個別会議で本人の声にならない声を発信できた。
--------	--

できていない点	ご家族に会う機会が少ない職員は、ご自宅での生活環境までは把握しきれないことがあった。送迎時などに家族に様子を伝えることが不十分なスタッフもいた。体調の変化に気づき共有することはできたが、即時に対応できていないことも見受けられた。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	・できる限り個別会議を行う。 ・ケア会議は月 1 回なので、疑問に感じたり相談したいことはビジネスチャットを利用する。 ・家族と会う機会があった時は、積極的にコミュニケーションを図る。
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和 8 年 5 月 28 日 (木)
4. 地域での暮らしの支援	メンバー	12 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1 人	5 人	5 人	1 人	12 人

前回の改善計画	- これまでの生活スタイルを理解できるよう、少しずつでも本人・家族から聞き取る - スタッフ全員が外部の催しに参加できるようにする
前回の改善計画に対する取組み結果	個別会議で目標を共有するために、本人・家族からの聞き取り機会は前年度より増えたと思う。外部の催しに全員が参加することはできなかったが、できるだけ多くの職員に関わってもらうことはできた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?		7	4	1	12
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?		7	4	1	12
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?		6	5	1	12
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?			9	3	12

できている点	ドラッグストアへ新聞エコバックを配達したり、買い物支援をする中で地域の方との交流機会が持てるよう支援できた。地域のサロンや催しに参加できたし、昨年度よりも参加できたスタッフが増えた。可能な限り送迎時に、家族から自宅での様子を聞きとり必要な情報を共有していた。
--------	--

できていない点	家族と会える機会が少ないスタッフは、本人の生活スタイルの把握までできなかったという意見があった。民生委員の方や地域のイベントなど、資源の把握がなかなかできなかった。もっと積極的に民生委員とは関わっていききたい。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	- 昨年度、地域の行事に参加できていないスタッフも参加できるようにする。 - 情報を聞くだけでなく、ひとい木での現状を家族に伝えることで新しい情報の聞き取りに繋げる。
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和 8 年 5 月 28 日 (木)
5. 多機能性ある柔軟な支援	メンバー	12 人

◆ 前回の改善計画に対する取り組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？	1 人	11 人	人	人	12 人

前回の改善計画	・ 近隣住民と会った際は、積極的に挨拶などをする ・ 配食サービス事業者やヤクルトの職員さんなどに会った時は、声をかけて情報収集をする
前回の改善計画に対する取り組み結果	ひとい木周辺の住民を始め、利用者さんの近隣住民とも顔を合わせれば積極的に挨拶をするよう心掛けた。利用者さん宅に訪問して来られる方とは、会話する機会を持ち、情報収集をするようにしていた。

◆ 今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか？		7	5		12
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか？	4	6	2		12
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか？	5	4	3		12
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか？	2	10			12

できている点	訪問時利用者宅で、配食サービス・福祉用具業者・近隣の方々と、挨拶や話す機会が持てた。本人からの言葉や変化をスタッフ間で共有し、体調・状況やニーズに合わせて対応ができた。
--------	---

できていない点	挨拶は積極的にできたが、情報収集する所まではできなかった。ひとい木まわりの事業所などとの関わりが少ないこともあり、地域の資源について十分に把握できていない。家族にも情報共有できていない。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	・ 関係者に会ったときは、「最近どうですか？ 気になることはないですか？」と近況を聞いてみる。 ・ 地域の資源について知る機会を作る。
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和 8 年 5 月 28 日 (木)
6. 連携・協働	メンバー	12 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？	人	8 人	3 人	1 人	12 人

前回の改善計画	・カフェのチラシを再度配り、地域の方に気軽によってもらえるよう働きかける。利用者さんのご近所さんにも声をかけていく ・地域の行事を把握して参加できるようにしていく ・チームごとに、地域と関われる場所を新規開拓する
前回の改善計画に対する取組み結果	カフェについては、看板の掲示を継続していたが、思った程の集客は望めなかった。地域の行事については回覧板や運営推進会議で情報を収集し、去年は参加していなかった行事にも、利用者さんと一緒に参加させてもらえた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか？	1	2	4	5	12
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？		2	5	5	12
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか？		5	2	5	12
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？		8	1	3	12

できている点	事業所内保育所や児童センター・近隣幼稚園などと交流ができている。機会は多くなかったものの、地域の行事にも参加できた。カフェにも何人かの地域の方が来て下さり、交流機会が持てた。週 1 回のボランティアの方は継続して来て下さり、スタッフ・利用者さんと積極的に関わってもらえた。事業所の秋祭りに地域の方に参加いただくこともできた。
--------	---

できていない点	人員の関係で、地域のサロンへ最近参加が出来なくなっている。勤務の都合上、行事などの参加機会が持てなかったスタッフもいた。その他のサービス機関や自治体等の会議に参加はできていない。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	・エコバックの配布先を新たに開拓し、地域貢献ができる機会を増やす。 ・多くのスタッフが、会議に限らず関われる機会を作る。
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和 8 年 5 月 28 日 (木)
7. 運営	メンバー	12 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？	人	4 人	7 人	1 人	12 人

前回の改善計画	・積極的に来訪者と話をする ・子供も参加できるように、カフェの開催曜日を検討し関わりの機会を増やす
前回の改善計画に対する取組み結果	月 1 回「ひとい木カフェ」を開催しているが、集客率は良くなっていない。来年度は、開催の方法や広報の仕方を変えて行っていきたい。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができていますか？	1	4	6	1	12
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか？	1	8	3		12
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか？	1	4	7		12
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか？		9	3		12

できている点	アンケートなどで聞き取りをし、意見や苦情をスタッフに良いことも悪いことも共有し、対策を講じることができている。 新聞エコバックの制作を積極的に勧め、地域の方に提供することができた。
--------	--

できていない点	カフェの集客率は悪いが、効果的な対策は講じることができなかった。来訪者とあいさつはできているが、積極的な関わりはできていない。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	・ひとい木の行事とカフェを同時開催する。年間スケジュールを決め、前もって告知できるようにする。 ・カフェのチラシを近隣のお店等に置かせてもらえるよう依頼する。 ・地域の催しに参加する際には、チラシなどの配布が可能か確認する。
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和 8 年 5 月 28 日 (木)
8. 質を向上するための取組み	メンバー	12 人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1 人	11 人	人	人	12 人

前回の改善計画	・ 介助方法を統一する情報共有の取り組みを更に強化する ・ インシデントを職員会議で共有し、ファイリングしていつでも見られるようにしておく ・ 研修内容を全員に周知できるよう、チェックリストなどで確認を行う
前回の改善計画に対する取組み結果	ビジネスチャットを活用した申し送りにより、介助方法の伝達は行えていた。職員会議でインシデントを共有することで、職員の意識付けができたと思う。研修については、ビジネスチャットのアンケート機能を活用し、全員がしっかりと確認できるようにすることができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	研修 (職場内・職場外) を実施・参加していますか	3	9			12
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか		6	3	3	12
③	地域連絡会に参加していますか	1	2	6	3	12
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	1	11			12

できている点	ビジネスチャットで必要な申し送りをし、介助方法の伝達・共有ができた。研修にはできるだけ参加、できない時は後ほど資料の確認ができた。インシデントで共有することで、同じことが起きないよう意識することができている。
--------	---

できていない点	法人外の研修には参加できていない。インシデントをファイリングしているが、見にくさがある。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	・ 法人内留学制度などを活用し他事業所へ行き、外から自事業所のケアを見つめ直してみる。 ・ 他事業所のインシデントも参考にできるよう、ファイルを見やすくする。
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式

実施 日	令和 8 年 5 月 28 日 (木)
---------	---------------------

9. 人権・プライバシー

メンバー	12 人
------	------

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？	3 人	9 人	人	人	12 人

前回の改善計画	・法人内、事業所内での研修実施により、各スタッフが理解を深める。全スタッフに周知する。
前回の改善計画に対する取組み結果	年 2 回の身体拘束廃止・高齢者虐待防止の研修については、全員の参加を確認し、全スタッフの理解を深めることができている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	身体拘束をしていない	11	1			12
②	虐待は行われていない	10	2			12
③	プライバシーが守られている	2	10			12
④	必要な方に成年後見制度を活用している	1	4	4	3	12
⑤	適正な個人情報の管理ができている	3	9			12

できている点	法人内の研修を通して知識を習得することで、利用者さんの安全に配慮して介助を行えた。研修などの学びを通し決してやってはいけないことの理解・確認ができ、言葉遣いに更に気を付けることができるようになった。
--------	---

できていない点	気付かないうちに、身体拘束や虐待まではいかないものの、不適切なケアをしてしまうことはあった。スタッフ同士の会話の際に、声の大きさ・内容に注意を払う必要がある。現場のスタッフは、成年後見制度については良く分かっていない。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	・ケア会議で 2.3 ヶ月に 1 回は振り返り、目標を立てる。 ・制度について学習する機会を作る。
---------------	--

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	医療法人社団友愛会	代表者	岩砂 智丈	法人・事業所の特徴	・利用者さんがお世話をされる対象ではなく、活躍できる場となるよう日々の活動を行っている。 ・地域の行事への参加や、地域のお店と協働した活動、地域に向けての活動などに力を入れている。 ・在宅生活を支えるための、柔軟なサービス調整・提供を行っている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 ひとい木	管理者	伊藤 直美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	4人	1人	人	2人	人	2人	1人	10人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・担当スタッフがアセスメントを実施、定期的な個別会議を開催し、目標・ケアの統一方法を話し合い共有する。 ・研修を実施した際、チェック表などを活用し、全員に周知できたか確認を行う。	・上期は個別会議の実施が定期的に行えていたが、下期は時間の確保が難しく、なかなか開催ができなかった。 ・研修実施の際は、ビジネスチャットのアンケート機能を利用したり、チェック表などを活用して、周知の確認を行えた。	・皆さんで協力して活動されていると思いました。 ・いつもスタッフ同士が明るい雰囲気で、関係性が良いのだなあと感じている。	・ケア会議内で、個別の目標や支援内容について検討する時間を設ける。話し合いの内容は共有し、統一を図る。
B. 事業所のしつらえ・環境	・事業所に来られた方のみならず、前を通る方などに積極的にこちらから挨拶をする。 ・玄関から中の様子が分かるように、入り口付近の整理整頓に気を付ける。	・来設した方にはもちろん、外を歩かれる方にも積極的に挨拶や声かけを行えた。 ・スペースがないため、どうしても玄関付近に物を置きやすい状況ではあるが、整理整頓には心掛けることができた。	・来設するといつも雰囲気が明るい。 ・入口が見えにくい。中を知らない人が多い。中に入ってももらえる工夫をして、「こういう場所だったんだ。」と知ってもらい機会が重要。	・入口が入り込んでおり、中に入りづらいとの指摘があるため、イベントなどを定期的に行うことで、心の敷居が下がるよう工夫する。
C. 事業所と地域のかかわり	・利用者が作成する作品を地域の方へ寄付することで、間接的にも地域の方との関わりを深めていく。 ・「ひとい木カフェ」は月1回の定期開催を継続していく。	・「新聞エコバック」は、継続して近隣ドラッグストアに置かせてもらい、地域の方に利用してもらっている。 ・年間150個程度の手芸品などを、イベントなどで地域の方に持ち帰ってもらえた。 ・「ひとい木カフェ」上期は月1回の定期開催ができたが、参加率が悪く、開催方法を変えて2ヵ月に1回程度の開催となった。	・「ひとい木カフェ」は一度参加したが、一度は中を知ることができて良かったが、二度目以降はなかはか目的がなくて参加しづらかった。 ・「1日福祉デイ」に初めて参加してくれたが、作品の出品も事業所紹介もとても良かったので、来年も是非参加して欲しい。	・「ひとい木カフェ」は行事と同時開催することで、参加目的が持ちやすい開催方法にする。 ・「新聞エコバック」は設置場所を増設し、より多くの方に利用してもらえるようにする。 ・週1回事業所を開放し、ラジオ体操を実施することで、立ち寄りやすい事業所を目指す。

D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み	・近隣住民やお弁当屋、ヤクルトの配達員など、利用者と関わりのある人たちとのコミュニケーションを積極的にとることで、暮らしの変化などの情報収集を行い、変化に迅速に対応する。	・近隣の方やお弁当屋さんなどに会った時は声をかけ、最近の様子などを聞き取ることができた。変化があれば、迅速な対応も行うことができた。	・地域と関わろうとしているのは分かるが、出向いてどう本人の暮らしを支えているのかは分からない。	・地域の集まりなどにスタッフが参加し、地域の方々との関係性を深める。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	・当事業所の認知度がまだ低い状況が見られる。地域の方への発信方法などについて意見を頂戴し、都度対応策を講じていく。	・運営推進会議に出席される方々から、地域の行事に参加してはどうかと意見をいただいた。人員の問題などで、全てに参加することは難しかったが、可能な限り地域の行事に参加できた。	・地域の行事などに積極的に参加されたいと言われ、行事の情報を伝えると、実際に利用者さんと一緒に参加してくれていた。	・会議内でご案内いただいた行事や集いなどに、できるだけ多くのスタッフと利用者さんが参加できるようにする。
F. 事業所の 防災・災害対策	・利用者の地域の避難所をリスト化して把握しておく。 ・災害を想定した訓練を定期的を実施し、避難を支援する順番や動きなどを検討しておく。	・BCPの一環として、災害時の利用者の安否確認優先度と地域の避難所をリスト化した。 ・年に数回は、災害を想定した訓練を実施し、実際の動きなどの見直しを行っている。	・地域に介護事業所があるというだけで、災害時に頼りになってくれると期待している。 ・地域の避難所が対応できる人数は限りがある。こういう介護の事業所が、有事の際に自治会とどう連携するかを具体的に想定しておく必要がある。	・自治会の方からも地域の防災・災害対策情報をいただき、何ができるのかを事業所内でも検討する。